

クインシン・ナチョフ

クインシン・ナチョフ



Jazz の最先端を走る NY、そして、スタンダード JAZZ があふれる TORONTO。この2つの街がもつ独特の表情、それを表現する“ジャズ・テナーサクソ・プレーヤー:クインシン・ナチョフ・・・”この度、彼の日本来日公演が2004年5月に決定しました。

カナダ・トロント生まれの Quinsin Nachoff (クインシン・ナチョフ) は、10歳の頃、父親の所持していた Sax との出会いをきっかけに Eastman School (Rochester) で音楽の勉強後、プロの Jazz Musician としての道を選択し、トロント大学へ進みました。

卒業後は、Banff Alumni Jazz Band で Joe Lovano (sax) や Kevin Werner (p) 等との活動のなか更に勉強を重ね、1998年に自分独自のバンドを結成しカナダ横断ツアーを成功。

その後、活動の場を New York へ移し、ピアニストで作曲家でもある Jim McNeely との出会いにより作曲家としての才能を養いながら、幅広い音楽活動を行ってきました。

1997年から「モントリオール・ジャズ・フェスティバル」を皮きりにカナダ国内での様々なジャズフェスティバルに参加するなど積極的に音楽活動をスタート。

数多くの映画に曲を提供するなど作曲家としても意欲的に活動し、1999年にはモントリオール国際フィルム・フェスティバルにおいて、Anthony Cristiano 監督の作品を通し、多くの人々に紹介されました。

また、2001年5月には、The Banff Center for the Arts でのコーチも務めるなど、多方面で活躍しています。

その後 Quinsin は海外へ活動の場を広げ、才能に溢れたカナダ人ミュージシャン Kevin Turcotte (tp), Anthony Michelli (ds), Jim Vivian (b) らを引き入れた自己のグループで、2001年冬にパリ・2002年5月には日本(横濱 Jazz プロムナード参加)・中国(香港)ツアーを成功。

それらのツアーでは、本人が手掛けたアルバム『Quiescence』で作曲家としての地位を確実にするなど、卓越された才能を思う存分発揮しています。

世界的に高名なドラム演奏家: Peter Erskine は、「近年、耳にしたどの CD よりも最高の出来である!! 斬新的な音楽を作る素晴らしい演奏家だ。Bravo!!」と彼にエールを送っています。

最近の Quinsin の活躍は、Canada Council Jazz I.D. コンテストで優勝、世界中から200人の音楽家が参加した Thelonious Monk Jazz Saxophone Competition では準決勝にまで勝ち残るなど目覚ましいものです。

日本で行われた“横濱 Jazz プロムナード2002”では、

「古典的な雰囲気は漂いながらもポストモダン的な斬新さに溢れ、流れるようなメロディが魅力的で、ミステリアスで爽快な音楽を作る・・・ (ジャズ評論家: Geoff Chapman)」と紹介されております。